

2011年度 湘南藤沢学会

「シンポジウム・研究ネットワーキングミーティング基金」報告書

英国ソーシャルイノベーション政策リサーチプロジェクト

UK Social Innovation Policy Research Project

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科社会イノベータコース修士課程2年 丸野遥香

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科社会イノベータコース修士課程2年 横山望

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科社会イノベータコース修士課程2年 醍醐航



1) 本プロジェクトの目的：

「社会起業家」とは、社会変革の担い手として、社会の課題を事業により解決をする人々のことをいい、Social InnovatorやSocial entrepreneurと呼ばれる事業家が世界中で活動しています。そんな中、現在社会起業家やソーシャルビジネスを支援する取り組みが世界各国で活性化しています。韓国では「社会的企業法」、イタリアでは「社会的協同組合」など政府がコミュニティ活動を支援しており、その中でも歴史をもつのが英国のソーシャルイノベーション支援政策です。日本においても、前鳩山政権のもとで、金子郁容教授を座長とする「新しい公共円卓会議」が発足、社会起業家やNPOの支援に関する議論がなされ、実際に今年の6月に寄附税制が改正するなど、ソーシャルイノベーション支援政策が加速しています。今後、ますます日本における「新しい公共」を実現し、ソーシャルイノベーション政策を推進するために、ソーシャルイノベーション政策先進国のイギリスを訪問し、現地で研究者及びソーシャルビジネス事業者との意見交換会を実施します。日英のソーシャルイノベーションの相互理解を深め、今後の日本の政策の発展に貢献することを目的としたプロジェクトです。

2) フィールドワーク期間および訪問先：

2011年9月12日～9月14日

United Kingdom

Oxford University, London South Bank University

3) 調査方法および内容：

■国際学会への参加：

International Social Innovation Research Conference2011に参加。



イギリス国内のみならず、フランス、ドイツ、ノルウェー、ハンガリーなど各国から集うソーシャルイノベーションを専門とする研究者やビジネススクールの教授の方と情報交換を行いました。

学会の様子はこちらです。

<http://www.lsbu.ac.uk/business/ISIRC%202011%20conference.shtml>

■各関係者へのインタビューの実施：

<ビジネスセクター>



ロンドンにおいて、社会起業への責任投資に携わるビジネスセクターの方にインタビューを行いました。イギリス国内における、NPOやNGOと企業との関わり、また、SROIや社会的インパクトの評価に関するお話まで幅広くうかがいました。

ヒアリング先：FTSE、三井住友銀行（責任投資部門）



<学術関係>

ソーシャルイノベーションを専門に教鞭をとられていらっしゃる教授、および、社会起業を専門に学ぶ各国の学生に対して、英国での政策と社会起業家の現状についてお話をうかがいました。

ヒアリング先：Prof. Alex Nicholls（Oxford University Said Business school）ほか

4) 成果と今後

このたびのフィールドワーク調査で得られたことは大きく2点あります。まず1点目は、英国での政策の実情です。チャリティ先進国と呼ばれ、ソーシャルイノベーションに関する政策も進んでいると言われている英国でしたが、関係者へのヒアリングと学会への参加を通じて、政策としてうまくいっている点とそうでない点が明らかになりました。2点目としては、日本のソーシャルイノベーション政策の今後に大きな可能性を感じたことです。日本の政策や日本人社会起業家のビジネスモデルに対して欧州の研究者は大変興味を抱いており、今回の調査をきっかけに生まれたネットワークを活かし、これからも継続して情報交換をし、よりよい政策のデザインの議論を行っていきたいと思います。最後に、シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金のご支援のおかげで、無事に英国へ渡り、ソーシャルイノベーションのムーブメントの最前線を学ぶことができたことに心より感謝いたします。ありがとうございました。